

東京アマデウス合唱団

第14回定期演奏会

東京アマデウス合唱団

'93年11月13日(土)7:00開演  
石橋メモリアルホール

# Program

## 1.

1. アヴェ・レジナ・チェロールム 変ロ短調

Ave Regina Coelorum

J. G. アルブレヒツベルガー

•

2. テ・デウム・ラウダムス ハ長調

Te Deum laudamus K.141 (66 b)

W. A. モーツァルト

•

3. ミゼリ・コルディアス・ドミニ 二短調

モテト「主の憐れみを」 Misericordias Domini K.222 (205 a)

W. A. モーツァルト

< 休憩 >

## 2.

- ミサ プレヴィイス 変ロ長調 ※ 下線のある曲

Missa Brevis in B K.275 (272 b)

W. A. モーツァルト

1. キリエ

2. グローリア

3. サンクタ・マリア・マーテル・デイ へ長調

Sancta Maria, mater Dei K.273

W. A. モーツァルト

4. クレド

5. アルマ・ディ・クreatoris へ長調

奉納唱「うるわしの創造主なる神の御母」

Alma Dei creatoris K.277 (272 a)

W. A. モーツァルト

6. サンクトゥス

7. ベネディクトゥス

8. アニュスデイ

## ご あ い さ つ

本日、東京アマデウス合唱団第14回定期演奏会を開催するにあたりまして、多くの方々にご来場いただき、厚くお礼申し上げます。

東京アマデウス合唱団は1980年の創立以来、モーツァルトの作品を中心に置きながら、その時代周辺のバロックから古典派の合唱音楽を取り上げ、年間ほぼ一回の割りで演奏活動を行ってまいりました。

1988年から、私たちは指導者に齋藤明生氏を迎えて、音楽創造の一点に集中して基本的な訓練を怠らずに、かつ理想的な演奏の実現に向けてこれまで研鑽を積み重ねてまいりました。近年その道筋が見えてきたとの評もいただいているところですが、今ようやくスタートに辿りついた段階というべきでありましょう。遙か彼方の理想を仰ぎながら、一歩ずつ、日々の努力を惜しまぬよう心しております。

当合唱団は、モーツァルトの音楽をこよなく愛する者の集まりとして発足し、当初から職業や年齢はもとより合唱の経験の有無をも問わずに誠に多様な人々によって構成され、活動を継続してまいりました。

結成からこのかた、活動運営は必ずしも順調であったわけではありません。アマチュア合唱団が抱える宿命ともいえるべき、構成員の入替わりや員数の消長などによって、音楽面での継承や蓄積の難かしさと運営面での経済的な困難を経験してまいりました。

これまで幾度か存亡の危機に遭遇した際に、いずれの折にも、優れた指導者と良き共演者に恵まれたこと、それに加えて周囲の方々から励ましの声をいただいたことが、どれほど再興の力となったことか計り知れません。今日のアマデウスが、多くの人々に支えられてきた賜であることに思いをいたすとき、私たちは感謝の念を禁じ得ません。

今後とも、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今回は、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトのザルツブルグ時代の作品群を中心にして、一年の成果をお届けいたします。

今宵、皆様に一片の印象をお持ちいただくことができますなら、私たちにとってこれに優る幸せはありません。

1993年11月13日

東京アマデウス合唱団

団 長 橋 本 克 久

# Program Notes

1.

## 1. Ave Regina Coelorum

作曲者は、モーツァルトと同年代のヨーハン・ゲオルグ・アルブレヒツベルガー (1736. 2-1809. 3)。オーストリアに生まれ、作曲家、オルガニスト、音楽理論家として活躍しました。対位法理論の権威で、作曲法や通奏低音についての著書を残すかわら、ベートーヴェンを教えたことでも知られています。彼は700曲余りの作品を残しているといわれますが、この曲は1773年にだれかに献呈された4曲のAve Reginaのセットのうち第4曲変ロ短調のもので、彼が聖ヨーゼフ教会の合唱指揮者兼ウィーンの宮廷オルガニストであった時代の作品です。モーツァルトがウィーンに定住したのは1781年以降の10年間ですが、その間の二人の交渉ははっきりしていません。

曲はホモフォニックに「めでたし、天の元后」で始まり、ほとんどがフガートに展開しますが、Gaude Virgo Gloriosa (喜び給え、誉れある乙女よ)の部分は、ホモフォニーでフォルティッシモで歌われ、深い敬虔な祈りで終結します。このあとで演奏されるモーツァルトの新しい音楽と対比してお聴き下さい。

## 2. Te Deum laudamus K. 141 (66b)

モーツァルトが13歳のとき、1769年12月13日父レオポルトとイタリア旅行に出発する直前、ザルツブルクで作曲したといわれています。ミハエル・ハイダンのTe Deum (1760年4月)と似ているため、その模写と疑われていましたが、近年レオポルトの書き入れのあるパート譜が発見されて、自作であることが証明されました。

曲は典礼文を4つの部分で構成し、明るいホモフォニックな讃美のあと、Te ergo quae sumus (尊き血潮もて贖い給いし汝の僕を来り救い給え)をアダージョによる敬虔な祈りとして表現します。その後アレグロに戻り、聖徒と共に永遠の栄光のうちに数えられるように、導きと加護を願い、慈悲を祈り求め、終結部はフガでIn te domine……(主よ、汝に望みし事とこしえに空しくし給うなかれ)と、in aeternum (永遠に)を長いフレーズで繰り返しながら終わります。神童モーツァルトの非凡な才能を強く感じさせる作品です。

## 3. Misericordias Domini K. 222 (205a)

1775年の1月か2月、モーツァルトが「偽りの女庭師」を初演するためにミュンヘンにいたとき、選帝侯マクシミリアン3世の所望に応じて書かれたオッフエルトリウムで、翌年ポローニャの旧師マルティニ神父からその和声の美しさ、豊かな転調、旋律法などが賞賛を受けました。1777年12月モーツァルトがパリ旅行の途中マンハイムにいたとき、手紙の中でこの曲の写しを取って置かなかったことを後悔しています。

曲は、Misericordias Domini (主のいつくしみを)を穏やかな弱いホモフォニーで、Cantabo in aeternum (とこしえにほめまつる)をフガートな強いポリフォニーで11回繰り返します。ヴァイオリンの奏でる対声にベートーヴェンの「第九」を思わせる旋律が表れます。

2.

### ● Missa Brevis 変ロ長調 K. 275 (272b)

1777年の夏から秋にかけて、モーツァルトがパリ旅行を前にして、今回の演奏会でこのミサの間に挿入される形で歌われるK. 273のグラドゥアーレおよびK. 277と対して作られたと考えられます。様式に互いに共通するところが顕著にみられます。3曲とも同様の楽器編成で小さく、構成も小さな略式ミサです。初演かどうかはわかりませんが、モーツァルトがザルツブルグにいなかった同年12月21日聖ペテロ教会で演奏されたと、父レオポルトの手紙にあります。しかし、オリジナルの演奏パート譜には、この曲がザルツブルグ大聖堂に捧げるつもりであったことが明らかにされています。

Kyrieは軽く、ソプラノのソロで歌われる主題を合唱が応唱し、その主題を4人のソロが交替で展開し、合唱がまた応唱する形式で終わっています。Gloriaは、合唱の半音階的下降モチーフで開始され、快適な調で進められますが、Qui tollis以下の緊張した和声とリズム、Cum Sancto Spiritu以下のフガートな動きが曲をひきしめています。Credoは、明快なホモフォニーで進められますが、Et incarnatus以下の部分だけはアダージョでキリストの受肉と十字架に架かれたことが短調で歌われます。Agnus Deiのdona nobis pacemは、フランスのロンドをモデルにしてダンスのような感じでしめくくっています。この世俗性が当時論議の対象になりました。

## 3. Sancta Maria mater Dei K. 273

この曲も1777年9月9日、パリ旅行の成功を祈願するために、聖母マリアの生誕祝日に合わせて作曲されました。グラドゥアーレと言われていますが、自筆譜には記されていません。構成は、二つの主題が現われ、展開し、再現するというソナタ形式で、聖母への献身の表明と、この生涯および最後の死の時の加護を求めた祈りが、合唱だけでリード的に歌われます。

## 5. Alma Dei creatoris K. 277

K. 275のミサ・プレヴィス、K. 273のグラドゥアーレと対をなす曲で、1777年夏または秋に作曲されたオッフエルトリウムです。ソロと合唱の交唱が反復され、ソナタ形式になっています。

(筆:野口碩)

# Profile

ソプラノ

高橋 節子

札幌大谷短期大学音楽科卒業，同専攻科修了。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業，同大学院修了。伊原直子，戸田敏子，藤田道子の各氏に師事。在学中より芸大バウハカンタータクラブに在籍し，小林道夫氏の指導のもと多くのカンタータを演奏。また芸大定期演奏会においてハイドン「天地創造」にソリストとして出演する他，多くの宗教曲のソリストを務める。1992年バウハアカデミー（独・シュツトガルト）に参加し，H.リリンク指揮の演奏会にソリストとして出演。1993年日演連新人推薦演奏会（札幌）に出演。

アルト

中巻 寛子

東京芸術大学声楽科卒業。現在同大学院博士後期課程に在学中。声楽を岡部多喜子，戸田敏子，毛利準の各氏に師事。バロック期の声楽作品を中心に研究・演奏する一方，イタリア近代歌曲までの幅広いレパートリーで活動している。

テノール

大島 博

中央大学法学部卒業後，1981年東京芸術大学声楽科入学。渡辺高之助，高丈二，中山悌一，原田茂生の諸氏に師事。86～88年ミュンヘン音大でエルンスト・ヘフリガー氏に学ぶ。89年国際シューマンコンクール4位。90年以来フィッシャー・ディスカウ氏に師事。91年ベルリンフィル・ジルベスター・コンサートにソリストとして出演。現在東京芸大博士課程在籍中。

バス

野本 立人

東京芸術大学声楽科卒業。東京コンセルヴァトアール尚美ディプロマコースを経て東京芸大大学院修士課程修了。声楽を伊藤巨行，多田羅迪夫，羽根功二の各氏に師事。芸大メサイヤのソリストを務める。現在は主にコンサート歌手として活躍する一方，ドイツリート及び日本歌曲を中心としてリサイタルを行っている。名古屋音楽大学非常勤講師。

オルガン

水野 克彦

東京芸術大学卒業。ピアノを滝崎鎮代子，クラリネットを千葉国男，室内楽を細野孝興，オルガンを今井奈緒子の各氏に師事。現在はピアノ伴奏，オルガン，通奏低音の他，合唱指導，作曲と幅広く活躍。1987年から当合唱団の伴奏，合唱指導を担当。日本オルガニスト協会会員。

弦 楽

コレギウム  
アルジェントウム

1984年，東京芸術大学の卒業生及び在学生によって，バロックから古典派にかけての音楽を専門に演奏するため結成。これまでに年間約十数回の演奏会を行ってきたが，近年は「18世紀の音楽会」「深川コンサートシリーズ」「ヘンリーパーセルの肖像」など独自のテーマによるユニークな演奏会シリーズを行い好評を博している。また声楽曲，特に宗教音楽の分野での的確な解釈と演奏によって，様々な合唱団と共演。また古楽器演奏の分野でも活発な活動を行い，メンバーはバウハ・コレギウム・ジャパン，東京バウハ・モーツァルトオーケストラ，ザ・バロックバンド等で活躍。コレギウム・アルジェントウムとは“銀の合奏団”の意味。高岡真樹 (Vn) 森田芳子 (Vn) 小山みどり (Vc) 桜井 茂 (Kb)

指揮

齋藤 明生

東京芸術大学卒業，同大学院修了。1981年，芸大定期演奏会のブラームス「ドイツ・レクイエム」でソリストに選ばれた他，在学中よりベートーヴェン「交響曲第九番」や多くの宗教音楽のソリストを務める。1992年には独ライブチヒ聖トーマス教会においてH.J.ロツチュ指揮によるカンタータ礼拝式に出演した。また在学中より在籍している芸大バウハ・カンタータクラブでは多年にわたり演奏委員長を務める。声楽を須賀靖元，兵藤豪希，R.フィッシャー，Phフッテンロツハーに，宗教音楽を小林道夫，兵藤豪希の各氏に師事。現在宗教音楽研究会合唱団，渋谷混声合唱団指揮者。1987年から当合唱団の指導に当たっている。

## 東京アマデウス合唱団

ソプラノ／伊東茂美 大久保ルミ子 桑島加代子 佐藤友美  
佐藤裕子 鈴木真澄 武井佳代子 辻村順子 永瀬久子  
二星恵美子 宮澤弘美 村松あおい  
アルト／甘粕利枝 伊藤正子 江川美香子 大岩幸子  
加藤美穂子 国府田文子 小林真子 近藤むつ子 重泉秀子  
辻 敏子 西川正子 野田妙子 平野玲子 宮崎米子  
山口寛子 山中ゆりか  
テノール／伊原 宏 片岡 繁 中屋哲夫 松平新太郎  
柳沢琢麿 吉田英人  
ベース／柿沼 哲 菅原定三 野口 碩 橋本克久  
吉田一郎



1981 February Mozart: REQUIEM  
 1981 November Handel: MESSIAH  
 1982 November Faure: REQUIEM  
 1983 September Mozart: KRONUNGS MESSE  
 1984 September Mozart: REQUIEM  
 1985 October Bach: KANTATE Nr.106  
 1986 October Mozart: GROSSE MESSE  
 1987 October Schutz: MUSIKALISCHE EXEQUIEM  
 1988 December Mozart: VESPERAE  
 1989 November Mozart: REQUIEM  
 1991 February Mozart: LITANIAE  
 1991 November Mozart: DOMINICUS MESSE  
 1992 Nov. Charpentier: MESSE DE MINUIT POUR NOEL  
 1993 November Mozart: MISSA BREVIS in B

## 東京アマデウス合唱団 合唱団員募集

東京アマデウス合唱団では一緒に歌ってくださる仲間を募集しています。次回はW.  
 A. モーツァルト/レクイエムの合同演奏会を開催致します。(1994年秋開催予定)  
 練習日などは下記の通りです。皆様の起こしを団員一同お待ちしております。

- 練習：毎週水曜日、PM6:30～9:00
- 場所：早稲田奉仕園・スコットホール  
(地下鉄早稲田から徒歩5分)
- 指導者：斎藤明生
- 会費：入団費 1,000円  
           団費 3,000円/月  
           他に楽譜代等

